

都道府県名

佐賀県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	玄海町立値賀小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	13
児童数	27	27	31	29	34	27	1	176	

研究の概要

1. 研究主題

生きる力と豊かな心を育む教育の研究
 ～算数科・チャレンジ（総合的な学習の時間）を中心とした子どもの能力開発～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・実施学年・・・全学年
- ・実施教科・・・算数科、総合的な学習の時間

子どもたちに生きる力と豊かな心を育てていくために、これまでの総合的な学習の時間の研究をもとに、その活動を支える基礎・基本を確実に身につけさせることが必要であるため。教科の中でも特に児童の理解度に差が出やすい算数科を中心に研究を進める。

(2) 年次ごとの計画

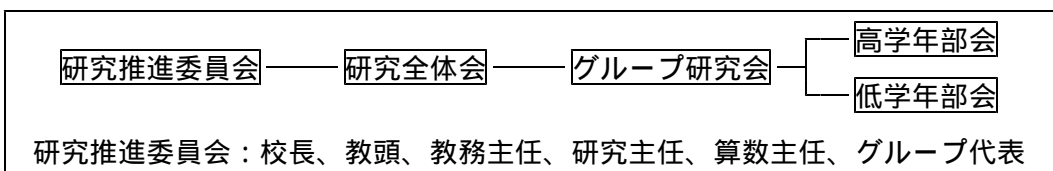
平成14年度	<p>テーマ 生きる力と豊かな心を育む教育の研究 ～算数科を中心とした子どもの能力開発～</p> <p>研究の見通し（仮説） 子どもたちが自ら追究していく学習課題を設定し、自己評価を取り入れた学習過程を工夫すれば、考える楽しさ、分かる楽しさを味わい、主体的に学習に取り組む児童が育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の理解や習熟の程度、興味・関心に応じた少人数での指導。コース分けは自己評価によって、子どもたちが決定する。 ・学習内容と目標を見直し、評価規準を作成する。 ・算数科において教科担任制を取り入れる。 ・取組の成果を地域の他の学校に発信していくために、その成果や学習指導案等を学校ホームページに掲載する。
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 生きる力と豊かな心を育む教育の研究 ～算数科・総合的な学習の時間を中心とした子どもの能力開発～</p> <p>研究の見通し（仮説） 子どもたちが自ら追究していく学習課題を設定し、自己評価を取り入れた学習過程を工夫すれば、考える楽しさ、分かる楽しさを味わい、主体的に学習に取り組む児童が育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の理解や習熟の程度、興味・関心に応じた少人数での指導。コース分けは自己評価によって、子どもたちが決定する。 ・学習内容と目標を見直し、評価規準を作成する。
--------	---

- ・算数科において教科担任制を取り入れる。
- ・取組の成果を地域の他の学校に発信していくために、その成果や学習指導案等を学校ホームページに掲載する。

平成16年度	<p>テーマ 生きる力と豊かな心を育む教育の研究 ～算数科・総合的な学習の時間を中心とした子どもの能力開発～</p> <p>研究の見通し（仮説） 子どもたちが自ら追究していく学習課題を設定し、自己評価を取り入れた学習過程を工夫すれば、考える楽しさ、分かる楽しさを味わい、主体的に学習に取り組む児童が育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の理解や習熟の程度、興味・関心に応じた少人数での指導。コース分けは自己評価によって、子どもたちが決定する。 ・学習内容と目標を見直し、評価基準を作成する。 ・算数科において教科担任制を取り入れる。 ・基礎・基本の定着のための工夫。 ・基本的な生活習慣、学習習慣の徹底のための工夫。 ・取組の成果を地域の他の学校に発信していくために、その成果や学習指導案等を学校ホームページに掲載する。
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>単元ごとのテスト結果の分析</p> <p>1学期と2学期のテストの平均点を全国平均との差で表すと、</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">1年</td> <td style="padding: 2px;">思考・判断9.3</td> <td style="padding: 2px;">8.0</td> <td style="padding: 2px;">表現・処理 9.4</td> <td style="padding: 2px;">10.8</td> <td style="padding: 2px;">知識・理解10.8</td> <td style="padding: 2px;">8.2</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">6年</td> <td style="padding: 2px;">思考・判断9.6</td> <td style="padding: 2px;">12.0</td> <td style="padding: 2px;">表現・処理-1.0</td> <td style="padding: 2px;">9.3</td> <td style="padding: 2px;">知識・理解 8.7</td> <td style="padding: 2px;">11.3</td> </tr> </table> <p>1年生と6年生はどの観点も10点近く高い。特に6年生の表現・処理は-1.0点から9.3点にまで伸びている。</p> <p>低学年では単元末に学習してきたことを生かして、計算の式から場面を考えたり、場面の絵から計算の式や問題を考えたりする活動を子どもたちが自分たちで問題を出し合う活動として取り入れた。その結果、主体的に活動する姿が多く見られた。また、計算の技能だけでなく思考・判断の能力も高められた。</p> <p>高学年では様々な解決方法ができるような問題を提示し、多様な考えを引き出す工夫をすることで、活動が意欲的になり、思考・判断の能力も高めることができた。</p> <p>標準学力検査の結果考察</p> <p>14年4月と15年4月を比較（算数の学力偏差値）</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">3年生</td> <td style="padding: 2px;">42.3</td> <td style="padding: 2px;">48.9</td> <td style="padding: 2px;">4年生</td> <td style="padding: 2px;">51.7</td> <td style="padding: 2px;">49.3</td> <td style="padding: 2px;">5年生</td> <td style="padding: 2px;">51.8</td> <td style="padding: 2px;">50.0</td> <td style="padding: 2px;">6年生</td> <td style="padding: 2px;">54.8</td> <td style="padding: 2px;">51.4</td> </tr> </table> <p>3年生が42.3 48.9と約6点高くなっているが、他の学年は2～3点下がっている。14年度の単元ごとのテストの結果では悪くない結果だったが、標準学力検査の結果が良くないのを踏まえて、学力をより定着させる工夫が必要である。</p> <p>自己評価テストから自分でコースを選ぶという活動を続けたことにより、特に高学年になるにしたがって自己評価能力が高まってきている。</p> <p>児童の意識調査の結果「算数の学習で楽しいと感じるのは」という質問に対して、「簡単な問題がすらすらできたとき」と答えた児童より「難しい問題を考えてできたとき」の方が多かった。発展的な内容を取り入れてきた成果と考</p>	1年	思考・判断9.3	8.0	表現・処理 9.4	10.8	知識・理解10.8	8.2	6年	思考・判断9.6	12.0	表現・処理-1.0	9.3	知識・理解 8.7	11.3	3年生	42.3	48.9	4年生	51.7	49.3	5年生	51.8	50.0	6年生	54.8	51.4
1年	思考・判断9.3	8.0	表現・処理 9.4	10.8	知識・理解10.8	8.2																				
6年	思考・判断9.6	12.0	表現・処理-1.0	9.3	知識・理解 8.7	11.3																				
3年生	42.3	48.9	4年生	51.7	49.3	5年生	51.8	50.0	6年生	54.8	51.4															

えられる。

特に、個人差の大きい内容は少人数での授業が有効であり、個人差が比較的少ない内容についてはT Tの形態が有効である。また、学年によっては習熟度別ではなく等質の少人数の学習の方が、落ち着いて学習に取り組むことができた。児童の実態や学習内容によって授業形態を工夫する必要があることが明らかになった。

2. 今後の課題

学習する内容や児童の実態によって、授業形態を少人数で行うか、T Tで行うかを工夫してきたが、T Tの授業形態の場合、2人の指導者が下位の児童に関わることができる反面、発展的な学習を必要とする児童に関わることができない。上位の児童に対する発展的な学習のあり方を工夫する必要がある。

習熟度で少人数授業のコース分けをする場合、児童の自己評価をもとに自己決定させているが、教師の判断と違ったコースを選択する児童に対する支援のあり方を工夫する必要がある。

本年度作成した評価基準を、来年度さらに授業実践を通して見直していく必要がある。

基本的な生活習慣や学習習慣を確実に身に付けさせるための工夫が必要である。

単元の学習が終わり時間が経っても学習したことが身についているように、学習内容を定着させるための工夫が必要である。

学力等把握のための学校としての取組

年1回の学力検査の実施(4月)
単元ごとのテスト結果の分析

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 授業公開、授業研究会
- ・ 6月27日 値賀小学校 1年「たし算おいしいよ」
6年「平均とその利用」
 - ・ 10月28日 値賀小学校 2年「かけ算の問題作り名人になろう」
4年「わり算の仕方を考えよう」

H P作成等の工夫の実績及び今後の予定
H Pにおいて、学力向上フロンティアのページを設け、授業公開、授業研究会の案内や学習指導案を公開。

<http://www.saga-ed.go.jp/school/edq13203/index.html>

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無